

# 羽田ミヤコタナゴ通信

## 通信

羽田に初めて訪れ印象に残ったのは、『周辺の農家では、羽田沼から水を引き込み、お米やトマト、ナス、キュウリなど様々な農産物を育てており、農業に密接に関わる場所にミヤコタナゴが生息しているんだな』ということでした。また羽田は農産物だけでなく、自然も豊かな場所で、今年9月10日に魚類相の調査を行った際、タモロコ・ゲンゴロウブナなど生き物の種類が多く確認できました。大阪出身の私は、ここまでたくさんの生物が確認できる場所を見たのは初めてだったので、とても感動しました。また、ブルーギルやオオクチバス、ウシガエルなどの外来生物が確認されなかったというのも、これまで羽田地域の皆様の取組みの賜だなと思いました。一方で、地元の方々が調査中に「昔に比べてすいぶん魚の数が減ったな。」とおっしゃっているのを聞き、羽田の状況は刻一刻と変化し続けていることを改めて認識しました。

羽田では2001年以降の生息調査でミヤコタナゴが確認できなくなり、近年の調査では試験放流された個体のみが確認されています。地球温暖化の影響、営農行為の変化など様々な要因が考えられますが、ミヤコタナゴだけではなく、ホタルやジュンサイなどの動植物も今は姿を消してしまっているとお聞きしました。羽田がどのように変化しているのか、皆様の目でも確かめてみると違う発見があるかもしれませんね。

羽田をどのような姿にしたいか、皆様と一緒に考えながらミヤコタナゴの保全に携わっていきたいと考えております。今後ご協力の程よろしく申し上げます。

(環境省 日光国立公園 那須管理官事務所 川脇 伊寿美)

## トピック

- 1 二枚貝の生息状況についての報告
- 2 生き物観察会が行われました
- 3 沼の水を全部抜いたら…確認されたものは!?
- 4 羽田沼の追憶 ～記憶をたどって～
- 5 今後の活動について

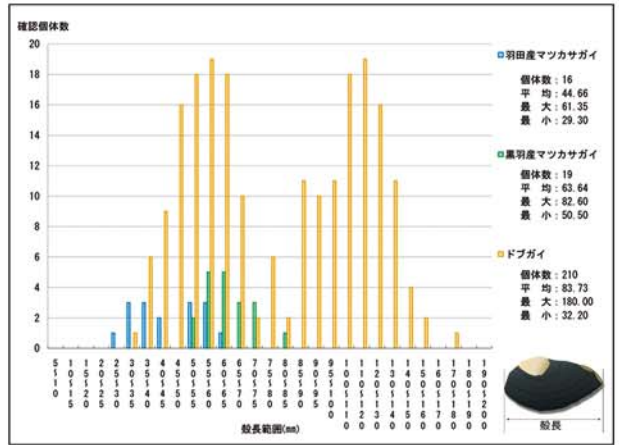


よくと見てくれ!!この雄姿!!  
～ 魚類相調査の1コマ ～



# 1 二枚貝の生息状況についての報告

平成27年の稚貝導入試験が開始されてから、毎年行っている二枚貝の生息調査を今年も6月20日に実施しました。今回は馬頭高校の生徒3名が初めて調査に参加し、宇都宮大学の学生、羽田小学校の5年生も含め総勢34名での調査となりました。調査は生息水路0m～30m区間（稚貝を導入している区間）と105m～150m区間（同水系産マツカサガイを導入した区間）でそれぞれ行いました。確認されたマツカサガイとドブガイについては、まず以前につけた標識の有無を確認した後、殻長を測定し、標識がない個体については新たに標識を付ける作業を行い、今後追跡調査ができるように作業を進めました。



グラフ1 二枚貝調査の結果

今回の調査結果を示したのがグラフ1になります。特徴的なことは、ドブガイの殻長の大きさに2つの山が確認されることから、2つの年級（学年）の異なる個体がいる事がわかりました。一方マツカサガイについても、稚貝導入試験の結果が徐々に見えてくるような傾向となってきたかと思えます。

いままでドブガイは、これほど多く生息水路内で確認されることはありませんでした。シジミは大量に生息していましたが、近年シジミよりもドブガイの成長が著しいのは、私たちに対する何かしらのメッセージかもしれません。

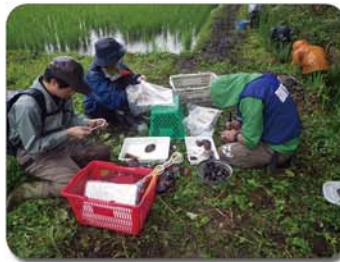
今年栃木県が公表した「2018レッドデータブックとちぎ」ではドブガイは絶滅危惧Ⅱ類（Bランク）に位置付けられています。



調査開始!!



5年生も参加です



記録作業の様子です



追跡調査のため標識を付けました

## 2 生き物観察会が行われました

今年で4回目となる羽田環境保全会主催の生き物観察会が、羽田沼より流れ出る地獄堀で行われました。4回目となると子どもたちも手慣れたもので、網の使い方や捕獲した生き物の取り扱い、そして最後の大仕事である分類作業についても、大人顔負けの力量でした。

生き物観察会では、地獄堀の調査が一段落した後、ミヤコタナゴ保存会の方々によるセルビン調査にも参加しました。このセルビン調査、実は重要な意味があるのです。その重要な意味とは、水路内で繁殖した個体を確認すること、どのような場所でミヤコタナゴが確認されるかを明らかにすることです。

今回捕獲された生き物は例年と同じ傾向でしたが、去年確認され今年確認されなかった生き物もいます。生き物も自分たちの住みやすい環境を求めて移動しますので、今年確認されなかった生き物はどこかに移動したのかもしれません。

毎年の観察会を積み重ねることは、自分たちが住んでいる環境がどのように変化しているのか、生き物から教えていただく貴重な時間です。来年は何が確認されるのでしょうか。来年のお楽しみです。



今年は何が確認されるのか?!



追いこめ!! 追いこめ!!



セルビンです。わかります?



セルビンの中身を確認中!!



立派なゲンゴロウブナです



出て来い!! 出て来い!!



### 3 沼の水を全部抜いたら…確認されたものは!?

今年度から羽田沼の水を定期的に抜き、沼底に溜まった泥を排出させ、沼底を空気とふれ合わせることによる水質と底質改善に取り組むことになりました。今までは水が臭うから抜く、濁りが目立つから抜くというような管理でしたが、水田で水を使わなくなった8月後半から9月下旬まで水を抜き、毎年実施する方向で始めました。(池の干し上げ作業の様子やその結果については次回の通信で報告させていただきます。)

昨年池干時に、地獄堀でミヤコタナゴが1匹だけですが確認されたことから、羽田沼の中にもミヤコタナゴが生息している可能性が考えられたため、今回の沼の水抜き作業時に羽田沼、地獄堀、生息水路の3箇所で魚類相調査を行うこととなりました。実はこれだけ念入りに地元の方々も参加して行った調査は初めてかもしれません。当初は9月5日に行う予定でしたが、台風の影響で9月10日に延期して実施し、羽田小学校の5年生をはじめ、宇都宮大学、馬頭高校水産科の生徒、各関係機関の計61名での調査となりました。

網で魚を捕獲するのが一般的な調査ですが、ここ羽田の場合は、調査員が機器を背負い、電極を水中に入れ微弱な電流を流し、それに驚いた魚類を網ですくい上げ、魚を傷つけずに捕獲する手法を用いました。

約2時間の調査で羽田沼、地獄堀、生息水路の魚類相が明らかになりました。今回の調査結果を一覧にしたものが表1、グラフ1、2になります。羽田沼、地獄堀ではミヤコタナゴを確認することはできませんでしたが、生息水路では平成28年6月に放流されたミヤコタナゴ1個体が確認されました。確認されたミヤコタナゴは現在、水産試験場で元気に泳いでいます。

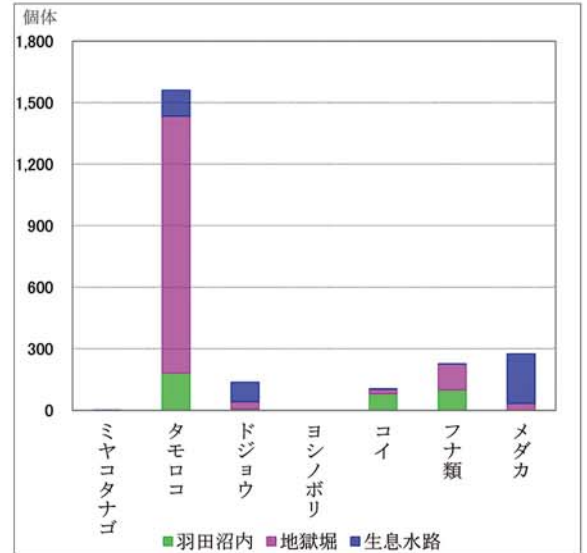
魚類相は羽田沼、地獄堀、生息水路で大きな差はなく、適材適所で生息している結果となったかと思えます。ドジョウやメダカは生息水路が中心、コイやフナ類は羽田沼中心に、タモロコは地獄堀が主な生息場所となっています。

今回の調査でかつて生息していた特定外来生物のオオクチバスやブルーギルについては全く確認されませんでした。ある一時を境に消滅したと考えられます。在来魚は残り特定外来生物が消える。全国的にも稀有な事例です。今後も沼の水抜き時に定期的に調査を行い、魚類相を把握して行く計画です。

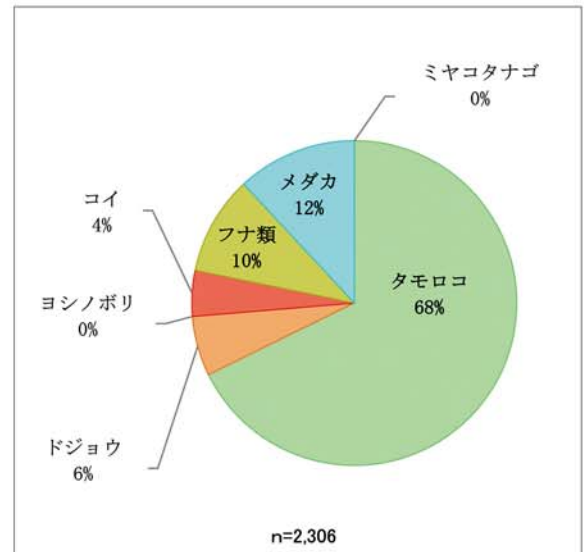
今回の調査では、馬頭高校水産科の生徒に参加をしていただき大変助かりました。馬頭高校でもミヤコタナゴについて室内でいろいろと試験研究を行っているということですが、現地での作業も非常に大切であり、今後の試験研究の上で、大変参考となったことと思えます。今後も地元の活動に大きくかかわっていただけるものと期待しています。

表1 確認された魚類相一覧

確認魚種	調査区域			魚種別計
	羽田沼内	地獄堀	生息水路	
ミヤコタナゴ	0	0	1	1
タモロコ	182	1,253	126	1,561
ドジョウ	7	35	95	137
ヨシノボリ	0	0	0	0
コイ	81	22	2	105
フナ類	100	125	2	227
メダカ	0	34	241	275
区域別計	370	1,469	469	2,306



グラフ1 地点別の捕獲魚類相



グラフ2 確認された魚類相



水を抜いた羽田沼



生息水路での捕獲調査



羽田沼での捕獲調査



地獄堀での捕獲調査



捕獲魚類の確認作業



5年生も確認作業に参加しました



## 4 羽田沼の追憶 ～記憶をたどって～

～寄稿文～

私が子供のころ（1960年代）羽田沼は遊び場であった。春は桜の花が水辺周辺に咲きほこり、大人も子供も集まり、手作りのお煮しめや肴を広げ、花見でにぎわった。水面では、ボートのロールを精一杯漕いで、手に豆を作りながらスピードを競った。岸に上がってからのちょっと酸っぱいトコロテンの味は絶妙で爽快なおいしさだった。

沼の南東部には、水田に水を引くための地獄堀があり、その支流にはたくさんの魚がいた。それを目当てにコエザルをもって魚とり。フナやドジョウがたくさんとれた。その中にオシャラクブナやカラスガイもいた。ザルですくい上げたとき、ザルの中にピチピチ、によろによろと動いている姿を見た時は、心躍る気持ちだった。夏になると沼西側の浅瀬の水は、湧水であるにもかかわらず、ぬるま湯のようになり、そこに浸ると程よい湯加減で、体温を下げ、全身がさっぱりとし、気持ちよく、水浴びには絶好であった。たまに、ヒルに吸い付かれることもあるが、遊ぶ楽しさのほうが勝っていた。また年中通して釣りにいった。竹藪から竹を切り出し、釣竿にして、ミミズを餌にフナ釣りを楽しんだ。ウキがピクピクと沈むタイミングをみはからって竿を引き上げると、フナがぶら下がっていて嬉しくてたまらなかった。睡蓮の葉や莖に針や糸が絡みついてテグスが切れても、仕掛けを付け替えて釣りをつづけた。時間がたつのをすっかり忘れてしまっていた。

羽田沼の西の高台は、『長者平』と呼び雑木林であった。そこでは、土器やヤジリ、石斧などを拾うことができた。大昔から人々が生活していたことがわかり、食料や水など自然豊かな土地であったことがうかがえ、この地に生まれ住んでよかったと思う。

あれから半世紀の時が過ぎ、今の沼周辺は羽田沼野鳥公園として整備され、自治会員や羽田小学校の児童によって清掃が行われ、週末には直売所が開設され、大田原市民や羽田住民の憩いの場となっている。冬には、白鳥やカモなどの渡り鳥が飛来し、多くの人々に癒しを提供している。また、支流の水路周辺は生息地保護区に指定され、ミヤコタナゴの保護活動が展開されている。

このように羽田沼を中心とした地域は、自然豊かで、多彩な生き物の生息域として貴重な地域であり、古来より活用、維持管理しながら人々は暮らしてきた。これからも将来にわたって自然環境を守り、発展するために努力していきたいと思う。

（羽田自治会長 松本光正）



写真につきましては『羽田郷土史』に掲載されているものを引用させていただきました

## 5 今後の活動について

10月16日に地元関係者をはじめ、各関係機関の方々と話し合い、今後の作業について話し合いを行いました。主な作業計画は以下の通りです。

### ○ 試験放流区間の見直しを行います。

今まで試験放流を生息水路上流部で実施してきましたが、春先の営農時に水が切れてしまい安定的に水量が確保できないことから、安定的に水量を確保できる区間を試験放流区間として定め、稚貝導入試験やミヤコタナゴの試験放流を行います。今までの試験放流区間についてはドブガイの生息が著しいことから、その区間についてもモニタリングを行っていきます。

### ○ 新たな試験放流区間について整備を行います。

新たに試験放流区間を決めた後、その区間の整備を行います。多くの方が水路の観察を行いますので、水路が崩壊しないような対策や鳥に捕食されないような対策を行います。

ご協力よろしく申し上げます。

問い合わせ先：大田原市教育委員会事務局文化振興課文化財係  
TEL 0287-98-3768  
FAX 0287-98-7124  
E-mail bunka@city.ohtawara.tochigi.jp